

基本理念及び目指すべきまちの将来像

交流と共生のまち・元町山手

～芸術文化活動を通じた交流と多文化との共生により賑わいと活力が生まれるまち～

【元町山手地区の将来の姿】

当地区は、神戸港を見おろす山手に位置し、開港以来、日本人と外国人が共生する雑居地として、教会や寺院等の宗教施設、外国人学校、国際的なホテル等が立地する異文化交流の場であった。

また、県立第一神戸高等女学校をはじめ、数多くの学校が設立され、教育と文化の先進地でもあった。この地に整備された県民会館は、県民自らが実践する芸術文化活動など、多様な人々が芸術文化を通して交流する拠点として、多くの県民に親しまれてきた。

こうした特色を活かし、人生 100 年時代を迎えて自由時間が充実するなか、県民が身近に芸術文化を感じ、心豊かな生活を楽しむとともに、神戸を訪れる外国人をはじめ、様々な人々がこのまちの地域資源を巡り、芸術文化や食文化に触れることで、集い、ふれあい、賑わいと活力が生まれるまちを目指す。

まちづくりの基本方針

1 人々が集い、ふれあい、賑わう「まち」

(1) 人々が集う拠点の再生【つどい】

県政 100 周年記念事業として整備した「県民会館」は、県公館、相楽園などの近隣施設とも連携し、県民の幅広い文化交流に加え、生涯を通じた学び直し、外国人が日本文化に触れる場など、人々が集う幅広い活動拠点地区として再整備する。

(2) 国際的な交流拠点の誘致【ふれあい】

外国人が居住する「雑居地」として発展してきた土壌を活かし、インバウンドニーズに対応するラグジュアリーホテルや外国・外資系企業に対応する質の高いオフィス等を核とした交流拠点を誘致する。

(3) 新たな賑わいの創出【にぎわう】

三宮方面や元町駅南方面からの回遊性を高めるとともに、沿道の公共施設等の再整備と併せてカフェやショップ・レストランなどを誘致する。特に元町駅は、駅舎と一体となった商業施設や、元町山手地区へのプロムナードなど、玄関口にふさわしい整備を検討する。

2 安全・安心で、ゆとりある「まち」

(1) 県政の司令塔となる本庁舎の再整備

建築後約 50 年が経過する本庁舎は、耐震性能の不足、施設・設備の老朽化、バリアフリー等の課題が生じているため、南海トラフ地震にも対応できる十分な耐震性能を確保するとともに、県政の司令塔にふさわしい先進的な機能を備えた庁舎として再整備を検討する。

大規模災害発生時の帰宅困難者対策として、県民会館のホールや会議室などを一時滞在施設として活用する。

再整備にあたっては、周辺庁舎や神戸ハーバーランド庁舎等に分散する県関係機関の集約を検討する。

(2) 緑豊かな都市空間の整備

元町駅から諏訪山公園に至る動線を「まちのシンボル軸」と位置づけ、神戸市とも連携しながら、誰もが容易にアクセスできるバリアフリー化を図るとともに、県公館、相楽園などの豊かな緑を活かした魅力的な歩行者空間の整備を検討する。

3 民間からの提案と活力の導入

(1) 公共空間を活用した民間主体の賑わいづくり

民間事業者からの提案と活力を最大限導入し、公共施設、歩道などの公共空間を活用した賑わいづくりを進める。

(2) 民間事業者アドバイザーの活用

事業計画の策定にあたり、民間事業者からアドバイザーを募集し、民間のノウハウを活かした事業提案や助言を受ける。